

# 令和3年度 社会福祉法人ふたば 事業報告

1、法人本部 豊橋市中原町字西荒神 20 番地の 1

2、代表者 理事長 河合 寛 (～令和3年6月17日 )

理事長 原田公孝 ( 令和3年6月17日～)

理事 6 名、評議員 7 名、監事 2 名 ※役員に欠員なし

3、実施事業

①法人本部 (事務局)

①障害福祉サービス

○授産所ふくふく 生活介護事業 (定員 55 名)

○ケアホームームふたば 共同生活援助事業 (定員 5 名)

短期入所事業 (定員 2 名)

②地域生活支援事業 (公益事業)

○授産所ふくふく 日中一時支援事業所 (定員 3 名)

4、理事会開催 (主な議題)

令和 3 年 5 月

令和2年度事業報告及び決算報告、監査結果報告、社会福祉充実計画、次期役員候補者、次期評議員候補者の推薦、次期評議員選任・解任委員候補者の選定、定款の変更案、定時評議員会の開催日時及び議題

令和 3 年 6 月

理事長の選任

令和 3 年 1 1 月

事業計画の進捗状況の報告、理事長専決事項の報告

令和 4 年 3 月

最終補正予算、令和4年度事業計画及び予算、各種就業規程の改定、虐待防止等の規程の策定、臨時特例交付金に関する規程の策定

5、評議員会開催 (主な議題)

令和 3 年 6 月

令和2年度事業報告及び決算報告、監査結果報告、社会福祉充実計画、役員を選任、定款の変更

6、重点科目について

(1) ケアホームふたばの第2棟目の運営を軌道に乗せること。

→ケアホームふたばが既設の建物につなげる形で増築し、共同生活援助9名、短期入所4名の事業所が完成した。令和3年4月より運営開始した。

①入居者・利用者について

グループホームは定員9に対して7名のスタートとなった。新たに入居されたのは男性。先に入居されている方が環境の変化で不安定になったり、毎日入居希望の

方もいざ新生活を始めてみてから家とホームとの過ごし方を改めたり、コロナウイルス感染者拡大時期には濃厚接触者となり2週以上も自宅待機を余儀なくされたりと、上半期は見込みより利用日数は伸びず。下半期になって1週間の生活リズム（自宅へ帰る曜日に確定）が確立された様子。空床の入居希望があるものの、契約には結びつかず。

短期入所は4床のうち1床は緊急時対応に使用する部屋という位置づけで運営。ご家庭の事情で連泊をされる方などが目立つものの、コロナウイルス感染症拡大時期にキャンセルも多くあった。ホーム入居者優先で慎重に進めてきたのでこちらも上半期よりも下半期の方が利用率は良い。

## ②職員体制について

令和2年度に求人かけたが専属職員の採用が開設時には間に合わず、2カ月前の指定変更の段階で授産所ふくふくの常勤職員のフォローを恒常化させる方針を固める。

現場の常勤職員全員で朝2時間、夕方2時間の各1名のフォローを開始。ホームの職員の動きがある程度見通しがとれた夏頃から、夕方のフォローは授産所ふくふくのパート職員が兼務し専属で対応が可能となった。また、掃除職員、調理職員などの家事を中心に対応する職員を置き、活動スペースと家事が物理的に倍増した生活支援員の負担を軽減することができた。

年度末になり夜勤職員や早朝勤務職員が確保でき、令和3年度をもって常勤職員の恒常的な朝のフォローは終了し、以降は単発のフォロー要請を受ける形となる。

なお、常勤看護師は医療連携の兼ね合いで併任であり、毎週1回朝の勤務で健康観察を実施したり、24時間オンコール対応、短期入所の医療的ケアの手技伝達と実質フォローを令和4年度も継続している。

## ③その他

利用者も職員も、環境や体制の変化に順応するのに数カ月を要した。職員の確保も下半期後期にやっと進みだしたイメージ。

## (2) 授産所ふくふくとケアホームふたばの職員相互協力体制の強化

→令和3年度初日から授産所ふくふく常勤職員によるケアホームふたばへのバックアップを開始したが、授産所ふくふくでの送迎や早朝スライドなど並行して実施せざるを得ない状況で、バックアップに向かうものも、現場に残るものもどちらも通常業務に加えての仕事となり常勤職員の負担が予想以上にかかった。

夕方のフォローはパート兼務に任せ、ホームの家事パートを切り分け職員を配置することで、常勤職員の負担は減ってきた。

良い面は、ホーム入居者のうち他事業所利用者の授産所ふくふく移籍の際に支援に入ったことのある職員が多くいることで利用者・職員共にスムーズに対応できたことや、ホームの職員と常勤職員の顔と名前と人となりがある程度わかる業務上の連携が構築できたこと。

## (3) 授産所ふくふくの利用者の増

→令和2年度同様休みやすい傾向が継続され、コロナ禍での利用控えがあった。令和3年5月に新規利用者が生活リズムをつかめず契約解除、別の事業所の開設に合わせ

て数名が契約解除と、早い段階で年度計画に見込んだ人数の達成が困難な状況があった。

コロナウイルス感染者も2名出て、濃厚接触者なしの報があるも極端に利用を控える方が急増した。

とは言え、天災での休所もなく、入院延べ日数も少なかったこともあり、令和2年度から延300人増という結果となった。

#### (4) 職員の確保・離職の防止、必要な資格の取得や更新

→ 授産所ふくふくでは年度後半に常勤職員1名の増ができた。非常勤職員は、多少出入りがあったものの、複数の男性のパートの確保ができた。運転手の欠員が生じたがすぐ確保もできた。

ホームでは、看護師1名が引っ越しに伴い退職をした。下半期後期で早朝及び夜勤の非常勤職員が確保できた。掃除や給食を中心に入る職員を配置した。

経験年数を満たした職員にサービス管理責任者の資格を取得させた。また、サービス管理責任者の更新研修に1名を参加させた。

### 7、委員会

委員会の予定があったものの、適宜の開催が思うようにできなかった。これは職員の出勤状況、送迎やホームのフォローなどの状況、両社面談や学校関係の業務などで集まって協議する場を設けるのが令和2年度よりも難しくなっていることも要因。令和4年度は対策を立て先んじて事業計画に組み込んで対応中。

### 8、ふたば感謝祭

令和3年度の感謝祭は、夏から秋の第5波の影響もあり、夏の企画の段階で断念をした。代替企画案もあったが、これは令和4年度に検討していきたい。

# 令和3年度 授産所ふくふく 事業報告

## 1、重点施策（結果報告）

### （1）利用者支援の目標

①作業棟：作業プログラムの見直しをはかる。作業を一律4時間にする。  
作業工賃の見直しを図る。

→ オリジナル・クッキー班関連では、昨年度同様休日にあったバザー等のイベントが夏以降まではほぼ中止（年間40以上）。秋以降でイベントが少し開催されたが、新規かつ屋外開催が多かった。利用者工賃確保の動きとして、オリジナル作業ではマスクの販売は一段落した半面、下請け縫製作業において固定収入が得られた。クッキー班等は毎月金山総合駅での愛知県セルフセンターの販売会の参加が順調に推移したほか、当所でも道の駅とよはしの販売会を始めた。

農作業は農加工をコンスタントに実施し、班の垣根を越えて多くの利用者に関わることができた。お茶の名古屋方面での販売は好調で、喫茶のティーパックも専用包装している。

リサイクル関連ではアルミ缶が昨年の倍以上の売値となり、ビス抜き的大幅減を多少カバーできた。

この結果、授産売上全体は、昨年からは100万円以上伸びる結果になった。売上が増えたものの仕入販売による割合が増えていることや、原材料の軒並みのコストアップ等を見ると純粋な利益はあまり変わらない。

作業プログラムは利用者のできる範囲の多いもの（アクリルたわし作り等）や、安定収入・高額収入の得られる作業（縫製やアルミ缶）に移行していくよう働きかけるが、利用者側から新しい作業へ移行する抵抗感と、体調不良や話しながら和気あいあい作業をしたい等の理由から、思うようには進まなかった。

作業を4月から一律4時間とした。拘りがある方は変化に対応できず未だ作業時間を超えて作業をしている状況がある。また作業時間が減ったクッキー班の利用者は、一日で30分早く作業をこなすスピード感になじめず体調を崩し別作業班で仕切り直しているところ。作業の移行が進まない状況で、現状作業の維持に奔走しつつの一年となり、作業工賃の見直しは着手できなかった。前述のように売上が増えたもののそれ以上にコストも増えてきている状態で、もはや特別工賃のみならず時間給のカットも視野に入ってしまった。

現状クッキーや喫茶、縫製、リサイクルの作業に多くの利用者を移行しつつ作業の割合を多くとることができなければ令和4年度に時間給の再検討もあり得る。

②療育棟：療育の入浴・余暇等プログラムの見直しをはかる。

令和3年度は利用者の契約数減・契約日数減の大半が療育棟利用者だった。

そのため年度の途中で契約日数の増を図ったり、入浴待機者の入浴日の調整をしたり、利用者の希望ニーズに対応することに努めた。余暇プログラムは少人数ではあるが夏以降に屋外散歩がかなりできるようになり、くじら山での喫茶利用も復活できた。

③その他

たん吸引等の関する生活支援員の資格取得の検討はできなかった。

湖西方面の送迎はアンケートを実施の上でニーズを把握し、年末から送迎会議を数度開いて部分的ではあるが開始に舵を切り、令和4年とスタートと同時に送迎が開始された。(車いす対応軽自動車2台の運行)

(2) 職場の目標

「和やかな雰囲気、互いに協力できる体制を目指す」

概ね「利用者のために」という考えのもと協力して動くことができたが、心の余裕が少ない一年であったように思う。

ケアホームのフォローや送迎運転手の病気離脱などがあり、常勤職員に余裕のない状況があったが、常時の兼務職員の確保や送迎運転手の確保が秋以降に進み、年度末頃にはだいぶ負荷が軽減されてきた。

職員が増えるにつれて職員間の仕事観や利用者支援観の相違が浮き彫りになる。時間に追われ意思疎通がうまくいかない、職員が多く管理が難しいことを発端に、勤務時間や休憩時間、あいさつや勤務態度等で不公平感・不満感が増してきている。

2、令和3年度 事業報告

(1) 月別・地区別 利用契約状況

生活介護 ※月末在籍人数

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
豊橋市	69	67	67	66	66	65	65	64	64	64	63	63
市 外	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	8	9
計	76	74	74	73	73	73	73	72	72	72	71	72

契約解除 鳥山、後藤 (4月) 野口、イシザカ (5月)、袴田 (7月)、伊藤 (9月) 前川 (11月)、河合克宜 (2月)

新規契約 松波、二宮、栗須、二村、嬉野、鈴木直仁、イシザカ (4月)、高崎 (9月) 片山 (3月)

(2) 生活介護 利用者年齢状況 (令和4年3月末日現在)

年 齢	～19	20～	30～	40～	50～	60～	平均
男 性	5	16	12	6	0	8	35.5
女 性	0	6	15	3	1	0	34.7
計	5	22	27	9	1	8	35.3

(3) 生活介護 障害支援区分状況 (令和3年3月末日現在)

※生活介護は区分3以上が利用可能。ただし50歳以上は区分2以上。

区分	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男性	0	5	9	7	27	48
女性	0	1	2	5	16	24
計	0	6	11	12	43	72

(4) 利用状況に関して (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

生活介護 定員55名 (年度末登録72名) ※数字は延利用者数 ( ) は開所日数  
延10,789人 (250日) (※令和2年度:延10,480 (250日))

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
974 (22)	788 (18)	958 (22)	901 (21)	905 (22)	904 (21)	924 (21)	918 (21)	867 (20)	828 (20)	815 (19)	1,007 (23)

日中一時支援 定員3名 ※数字は延べ利用者数 述べ 1人(1日)											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

※本体事業所の稼働日に営業可能だが、在校生の実習体験や見学のみでは活用されず。放課後等デイサービスの利用ができるからか。

(5) 各事業の稼働率 一日に何人利用したかの計算

生活介護	令和2年度		令和3年度		前年度比	
	76.2%	41.9人	78.2%	43.0人	2.0%	1.1人

(6) 利用者の増減

- 生活介護 新規契約 9名(在宅9名)  
契約終了 8名(他事業所へ4名、入所2名、死亡1名、在宅1名)

### 3、職員研修(主なもの)

NO	開催月	主催	名称・内容	参加者
1	4月	ふたば	虐待防止研修(行動規範の読合せ)	現場職員
2	7月	東三セルプ	施設長会(年2回 リモート)	北尾
3	9月	東三セルプ	療育研修(インシデント・プロセス法)	北尾、浜野
4	11月	ふたば	安全運転講習会(保険会社講師)	理事長、運転職員
5	12月	東三セルプ	虐待防止研修 ※施設長会兼ねる	北尾
6	12月	あゆみ学園	摂食指導	前畑
7	1月	豊橋市社協	福祉職員レクリエーション講座	橋本昌
8	2月	東三セルプ	共同研修:アンゲーマジメント研修	綿貫、藤原、石倉、永井
9	2月	東三セルプ	事務員研修	藤原、嶋田
10	2月	県社協	サービス管理責任者(更新)研修	綿貫
11	3月	福祉医療機構	社会福祉法人会計実務セミナー	藤原

### 4、活動に関して

(1) 生活介護

- 生産活動 平均工賃月額 6,435円(前年工賃月額 7,055円) ※昨年対比91.2%  
コロナ禍や天候不順を原因として、小麦・油脂をはじめとする原材料や水道光熱費・輸送コストが高騰。企業は卸価格へ転嫁し商品原価が軒並み上がる結果になった。

特別工賃の支払いも一時検討したが、売上も上がったがコストも上がったために支払いは断念した。

- 療育 重度化のためケア度が上がり支援方法が若干変わるケースが多くみられた。
- リハビリ 各棟の会議にてリハビリに関係するケースを検討する機会を拡充。リハビリ内容の周知を行った。現場とリハビリ側双方向で、気づきを共有する機会となった。

(3) 作業班売上販売額比較 (単位：千円)

作業班	令和2年度	令和3年度	増減	対前年比
縫製	1,185	1,847	662	155.8%
クッキー	2,793	3,675	882	131.5%
リサイクル・くぎ・内職	2,092	2,168	76	103.6%
デジタル・喫茶・農作業	2,904	2,645	△259	90.0%
合計	8,973	10,335	1,362	115.2%

5、その他

(1) 保健・衛生

- ・前年度に引き続きインフルエンザ予防接種の補助を実施した。罹患者は0名。
- ・令和2年度以降に追加した感染症対策は、各送迎車にアルコール消毒液を常備、事業所玄関に非接触型体温計を配置、作業前の利用者の手指の消毒の拡大等。
- ・新型コロナウイルス感染症の陽性者が利用者で2名あった。事業所内の濃厚接触者の該当はなく、事業所内拡大はなかった。事業所は消毒の上で通常営業。
- ・希望する職員・利用者に対して集団接種会場のコロナウイルスワクチン接種を手配。

(2) 給食

- ・アレルギー対応に必要な方に給食業者と相談して特別食を提供できるようにした。

(3) 防災訓練

- ・防災教育・訓練、消火、通報等の訓練を実施した。各棟の消防組織を周知した。
- ・災害時対応マニュアルの整備。発電機・投光器等の使用訓練を毎月実施した。

(4) 実習の場の提供

特別支援学校生徒就業体験	2件 (豊橋特支1名、浜名特支3名)
社会福祉士等実習	1件 (日本福祉大学)
実習巡回指導	1件 (日本福祉大学からの委任)
歯科衛生士体験	1件 (中部ビューティデザイン専門学校 21名)

(5) 固定資産購入、修理・改修等

- 固定資産 令和3年度の購入はなし。
- 修理・改修 (作業棟) 換気扇修理、エアコンの修理、駐車場の砕石敷き等。  
(療育棟) 換気扇修理、カーテンレール改修、照明機材の取替等。

(6) 苦情・相談報告 : 苦情2件

1	8月	申出者：利用者家族	苦情種別：送迎車のドライバーに関して
	煙草のにおいがひどい。マスクもしていない。		
	対応：施設長がドライバーに厳重注意。事務長がドライブレコーダーを確認すると、送迎運転中ではないものの業務開始前にくわえ煙草で準備をする姿や、運転業務の直前まで喫煙している様子が確認できた。仕事内での喫煙は数回注意したので、これ以降のたばこでの苦情があった場合に処遇は考えるということとなる。		

2	3月	申出者：一般市民	苦情種別：送迎車の運転に関して
	<p>駐車場から出ようとしたら猛スピードで通過しこちらが慌ててブレーキをかけた。福祉車両を運転する姿勢が成っていないので改めてほしい。</p>		
	<p>対応： ドライブレコーダーを確認するが、苦情のあった付近を通りかかった車両はなく、記録も残っていなかった。しかし、現場周辺を報告時刻に走るであろう車両のドライバーに確認し、思い当たる節がなくとも注意をしてと、促す。</p>		

書面として残るのは送迎関連の内部・外部からの苦情であった。

#### (7) その他

新型コロナウイルス感染症関連の公的な補助金・助成金の取得について

国・愛知県) 燃油価格高騰対策助成金 (80,000 円)

小学校休業等対応助成金 (約 120,000 円)

豊橋市) 衛生管理体制確保支援事業補助金 (100,000 円)



# 令和3年度 ケアホームふたば拠点 事業報告

## 1、利用に関して

### (1) 月別利用状況

**共同生活援助** (定員9) 4月より2室空床。

利用延べ人数 単位：人

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用延人数	178	152	127	162	178	181	183	186	179	178	171	196	2,071

**短期入所** (定員4) 1床はコロナ対策 (ゾーニング目的) として予備居室としている。

利用延べ人数 単位：人

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
豊橋市	25	36	30	36	36	46	45	42	49	37	42	49	473
市 外	6	6	6	6	6	6	6	5	7	6	6	6	72
計	31	42	36	42	42	52	51	47	56	43	48	55	545

### (2) 各事業の稼働率 ※一日に何人利用したかという計算です。

年 度	令和2年度		令和3年度		前年度比	
共同生活援助	73.0%	3.64人	63.0%	5.67人	△10.0%	+2.03人
短期入所	58.0%	1.16人	37.3%	1.49人	△20.7%	+0.33人

稼働率は定員増により下がってはいるものの、利用人数は増えている。

※令和2年度 共同生活援助：定員5 短期入所：定員2

※令和3年度 共同生活援助：定員9 短期入所：定員4

## 2、健康管理保健・衛生、医療的ケア

### (1) 保健・衛生

・職員1名が新型コロナウイルス感染症の陽性者となり約2週間自宅待機となる。

利用者1名が濃厚接触者となり自宅待機とる。併用利用していた日中事業所がクラスターとなり、濃厚接触者ではないホーム入居者も自宅待機となった。いずれも約2週間。

全てのケースで事業所内の濃厚接触者の該当はなく、事業所内拡大はなかった。事業所は消毒の上で通常営業した。

・希望する職員・利用者に対して集団接種会場のコロナウイルスワクチン接種を手配。

・新体制となり精神不調となった入居者が見えた。利用の継続に際し、自宅療養及び向精神薬の服用の判断も必要であったので、初期のみ通院補助及び、入居利用再開のタイミングまで当別送迎を組んだ。

### (2) 医療的ケア

・授産所ふくふくの常勤看護師の併任で医療ケア体制が敷かれ、新規の短期入所利用者の利用が開始される。

・ケアホームふたばの看護職員に、授産所ふくふく利用中の短期入所希望利用者の医療的ケアの内容を確認する機会を設けた。

・共同募金会の助成を使用し、痰吸引機やクッションなど、短期入所で使用できる備品を確保した。

### 3、職員研修

NO	開催月	主催	名称・内容	参加者
1	4月	ふたば	虐待防止研修（行動規範の読み合わせ）	現場職員
2	8月	県社協	サービス管理責任者研修	渡邊

その他、毎月のケース会議を実施した。

### 4、苦情・相談報告

行動障害を有する利用者（利用者及び入居者）への不満を口にするもの、音や声、態度にパニックになる入居者が見えた。

周辺住民から、送迎中の乗り降りの際の利用者の興奮する大声についての苦情が入ることがあった。

### 5、その他

#### （1）新型コロナウイルス感染症関連の公的な補助金・助成金の取得について

国・愛知県）燃油価格高騰対策助成金（約 12,000 円）

豊橋市） 衛生管理体制確保支援事業補助金（150,000 円）

共同募金） 共同募金配分金（クッション、吸引機等の使用備品）

労働局） 人材確保支援等助成金（シャワーキャリー等）

#### （2）現場の職員確保と授産所ふくふくからのフォローについて

専属職員の採用が開設時には間に合わず、約一年間授産所ふくふくの常勤職員のフォローが続いた。（法人事業報告参照）

新しい生活のスタートと共に、これまでの働き方では賄いきれない部分もわかり、掃除職員、調理職員などの家事を中心で対応する職員を配置するようになった。

なお、授産所ふくふくから常勤看護師が医療連携の兼ね合いで併任となり、毎週1回朝の勤務で健康観察実施、24時間オンコール対応、短期入所の医療的ケアの手技伝達と実質フォロー等を令和4年度も継続している。

このフォローの実質経費については、ケアホームふたば拠点では採算が取れず、授産所ふくふくの負担となっている。なお、事業費・事務費の部分で授産所ふくふくの消耗品等を提供した部分がある。今件は決算上では見えない数字であるので、事業報告に記載する。

※ すべての法人・事業所の事業報告については、附属明細書は作成しない。